

# 令和7年 飯田市教育委員会10月定例会会議録

令和7年10月16日（木） 午後3時00分開会

## 【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	野澤 稔弘
教育委員	林 綾子
教育委員	麦島 真理子

## 【出席職員】

教育次長	秦野 高彦
副参事兼中央図書館長	瀧本 明子
教育政策課長	上沼 昭彦
学校教育課長	伊藤 寿
教育センター所長	北澤 孝郎
生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長	後藤 武志
文化財保護活用課長兼考古博物館長	下平 博行
市公民館副館長	小林 和弘
文化会館館長兼新文化会館整備室長	筒井 文彦
美術博物館副館長	槇村 洋介
歴史研究所副所長	牧内 功
教育指導専門主査兼学園支援係長	木下 耕一
教育指導専門主査	榊原 研太
教育指導専門主査	及川 崇
教育政策課総務係長	北澤 五月

---

## 日程第1 開 会

- 教育長（熊谷邦千加） それでは、定刻になりましたので、ただいまより令和7年度飯田市教育委員会10月定例会を開会いたします。
- よろしく申し上げます。

---

## 日程第2 会期の決定

- 教育長（熊谷邦千加） それでは「会期の決定」を議題といたします。今定例会の会期につきまして、本日10月16日の1日間といたしたいと思っております。ご異議ございませんか。
- （「ありません」との声あり）
- 教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。
- よって、今定例会の会期は、本日10月16日の1日間に決定をいたしました。
- では、次に進みます。

---

## 日程第3 会議録署名委員の指名

- 教育長（熊谷邦千加） 会議録署名委員として、北澤正光教育長職務代理者を指名いたします。
- よろしく申し上げます。
- 教育長職務代理者（北澤正光） はい。
- 教育長（熊谷邦千加） 次の日程に進みます。

---

## 日程第4 会議録の承認

- 教育長（熊谷邦千加） 9月定例会の会議録につきましての承認を求めます。
- あらかじめ原案を各委員のほうにお送りしております。内容につきましてご異議等ございませんか。
- （「ありません」との声あり）
- 教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。
- よって、9月定例会の会議録は、承認をいただきました。
- 次の日程に進みます。

---

## 日程第5 教育長報告事項

- 教育長（熊谷邦千加） 「10月教育委員会定例会 教育長報告事項」を御覧ください。この資料

でいくと次第の次になるかと思えます。

9月19日金曜日から25日の木曜日まで、飯田市の友好都市であるシャルルヴィル・メジエール市のほうへ、私とあと文化会館の職員2名、計3名で訪問をしてまいりました。

市長の代理として親書を届けるということ、それから世界人形劇フェスティバルを見るというようなこと、そして、AVIAMAの会長さんと懇談をさせていただくということ、さらに、数年前に龍江小学校とオンライン交流を行った私立のノートルダム小学校を訪問させていただいてまいりました。

過去にも、次長が行ったということで、何回か行ったり来たりということを進めています。龍江小学校のところに、このシャルルヴィル・メジエール市のラヴィニオン市長がおいでいただいたということもございました。

そんな関係であります。細かい日程はまた御覧をいただければなと思えます。大体片道14時間っていう中で行ってまいりましたが、写真を見ていただくのが一番分かりやすいかなと思えます。写真のページへ入りますと、私の左にいらっしゃるのがラヴィニオン市長で、友好都市との交換が最初であり、私の手に持ってる操り人形をお土産としていただいております。また、飯田市民の方にも、展示して見ていただくつもりであります。右のラヴィニオン市長を真ん中にして私が一番右にいる5人の写真は、飯田市以外に友好都市としてドイツの都市、それからフランス国内に一つ、そして飯田市です。左の2人の方はドイツの市長さんであります。ラヴィニオン市長、真ん中の右側の私の隣にいらっしゃるのはフランスの国内にある市の副市長さんなんです。そんな方と最初に歓迎パーティーみたいなのがありまして、出席をしてまいりました。

その下には、AVIAMAのルドゥ会長と本当はホテルで懇談する予定だったんですが、また日程が押して、ホテルの外っていいですか、屋根もついているんですが、そこでお話をさせていただいております。「ぼお」のポロシャツをプレゼントとして持っていきました。

それから、その次のページになりますが、9月22日のラヴィニオン市長表敬訪問では、この障子みたいに見える右側の写真ですが、これは「日本の間」っていう名前がついていて、ここに「よこね田んぼ」の写真とか、天龍峡の写真とか、りんご並木の写真とか、そういったものも飾られていたり、飯田市から送った水引の束、そんなものも飾られていたり、龍江小学校に来られたときの写真が飾られていたりする場所でした。そのラヴィニオン市長との懇談で、そのノートルダム小学校は私立なんです。「それ以外の公立の小学校、中学校、高校でもいいんですが、人形劇を通じた交流ができないかな」というような話がありました。「希望する学校があれば、そういうことを進めていきたい」ということ話して

きたところでございます。

あと、ノートルダム小学校の子どもたちと、これは四年生ぐらいのお子さんたちで、一生懸命日本語を勉強したり、日本のことを勉強して漢字書いてみたりとか様々なことやっていただいて、文化会館にいるシャルルヴィル・メジエール市出身のダコタさん、通訳をしていただいている方が一緒に行ったんですが、その方にフランス語で日本や飯田市の紹介をしていただいた。そんなところであります。

あとは3ページ目にいきますと、飯田市にも天竜川沿いに「シャルルヴィル・メジエール通り」というのが龍江の地区にあります。シャルルヴィル・メジエール市の中にも「IIDA通り」といって、中心市街より少し外れた。ですので、建物が割と新しい建物があったりする通りを見てきたり、2年に一度行われているということですが、世界人形劇フェスティバルの様子を見たりしてまいりました。

ちょっと室内でやったのは撮影ができなくて写真としてはないんですが、室内でやる人形劇場みたいところでやるものもありましたし、こういうふうに外でやったり、大きな機械の馬の写真があるところは、ここがまさにシャルルヴィル・メジエール市の中心広場でありまして、そこであちこちで屋外で催し物をやっている、人形劇をやっているという、そんな状況で、大変多くの皆さんがここに集まってきていて、子どもたちも平日には列をつくって並んで見にきていたっていう、そんな状況もありました。

それからシャルルヴィル・メジエール市には、飯田にはない人形劇の学校があるということで、人形劇の専門家、プロの人形劇の劇人が先生となって、人数はそんなに多くないんですが、芸術家になりたい若者を育てているというそんな学校も外からですけども、拝見もしてきました。

いずれにしても、これからの飯田市が交流していく先の直接お話ができたことは貴重な機会だったなというふうに思いますし、AVIAMAのほうでも「日本のこの飯田市の取組等をまた世界に紹介してほしい」というようなお話もいただいております。

2つ目のほうは、小中一貫教育サミットということで、呉市で行われたサミットに行っ  
てまいりました。

呉市の人口は大体飯田市の倍、学校数も倍、しかし徐々にやっぱり人口が減ってるそうです。そういう中で20年くらい前から小中一貫教育というのを、文科省の指定も受けたりして進めてきたところでありました。

大変立派な9階建ての庁舎で、見た目も中もとてもきれいなところでしたが、飯田市の

教育委員会のフロアと違うのは、あまり一般の人たちがいないなっていうシーンとして仕事をしているというところでありましたが、そこで教育長さんとも懇談をさせていただいて、その苦労をいろいろお聞きすることができました。また今、新たに取り組んでいるということもありましたが、様々なやはり長年積み重ねている中で、小中一貫教育の成果等を教えていただきました。

振興基本計画は「未来を創る人材を育てる」ということで、なんとなく飯田市が大事している振興基本計画とワードとしては共通しているところがあるなというふうに思いました。小中の併設校といいますか、そういう学校は全部が同じじゃなくて、義務教育学校があるし、小中が併設の学校もあるし、分散型の学校も3パターン全部ある、そういうふうになっていて、ただ、小中9年間を一つの塊として、小学校一年生から四年生までの四年間、それから小学校五・六年生と中一までを一つの塊として三年間、で中二・中三のところを八年生・九年生とって、そういう目指す・育てる資質・能力をその発達段階ごとに決め出して進めているということでした。

特に、各中学校部の特色生かした取組を行っているということで、その具体的なところは小中合同の授業研究とか合同研修会、あるいは中学校の先生が小学校へ乗り入れて授業するっていうようなことをやっているところでした。

成果としては、やはり生徒指導上の諸問題、暴力だとかそういうものが減っているとか、学力が、これは全国学調の結果等から向上しているとか、もう一つ大事にしている自尊感情、自分に対する、そんな感情がアンケート等で向上しているっていうことでした。課題はやはり人的措置がなかなか十分できないなっていうところが課題で、今の「みらい創造科」でもやっていますが、「カリキュラムの実践・検証ということが課題だ」ということで教えていただいて、実際には公開授業をいくつか見させていただきました。いろんな学校でやっていたんですが、私が見させていただいたのは、小中の併設、隣り合わせ、そういうところですが、小学校では広い廊下が真ん中であって、両側で授業をしていました。中学校は片側だけなんですけど、廊下で割とこちらにもあるような形式の建物でした。

やはりやっているのは総合的な学習の時間で、小学校一年生は地域に出て遊ぶとか地域を知るところから始まって、小学校三年生、中学校というように要するに発達段階に応じて総合的な学習の時間を進めていました。キーワードは「地域とかかわる」ということで、中学二年生・中学三年生になると「地域の課題を解決するためにどうすればいいか」というようなことを、具体的な行動する場面等について検討する場面を見させていただいたなというふうに思いました。

そういう中で、朝倉先生という広島大学の名誉教授のお話の中では、「一貫教育は柔らかく計画し、しなやかに実践すること」というお題でお話をされて、ある意味抽象的ではあるんですが、でもイメージはできるなあっていうことを思いました。

いずれにしても、成長するには子どもたちが挑戦を続ける時間や安心できる空間、学級であるとか、これは総合教育会議でも出てきた話題かなと思うんですが、そういうことが必要ですし、「その成長には同年齢だけではなくて、異年齢との関わり、あるいは家庭、学校、地域社会、様々な人との関わりが子どもたちの成長にはすごく大事なんだ」ということがお話をされたところでもあります。

写真は、中学生のあるグループごとに課題を追求している場面の写真というところがございます。

今回、外へ出る機会をいただきましたので、簡単ではありますが、そんなご報告をさせていただいて、また詳しくは折々にお話できればなと思っておるところでございます。

それでは、今報告もいたしましたことにつきまして、何かお聞きしたいような、ご発言したいようなことがございましたらいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

(「特にございません」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) では次の日程に進みたいと思います。

---

## 日程第6 議案審議(1件)

○教育長(熊谷邦千加) これより議案の審議に入ります。

---

### 議案第84号 令和7年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について

○教育長(熊谷邦千加) 議案第84号、「令和7年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」を議題といたします。

議案の説明をお願いします。

伊藤学校教育課長。

○学校教育課長(伊藤 寿) それでは議案第84号、令和7年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について、ご説明をいたします。

認定対象者につきましては、別紙のとおりでございます。

それぞれ記載いたしました認定要件にて飯田市就学援助費支給要綱第5条第1項の規定により、飯田市就学援助費の支給対象者として認定くださいますようご提案を申し上げます。

す。

説明は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの説明につきまして、質疑、ご異議等ございましたらお願いをいたします。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご質疑、ご異議なしと認めます。

それでは議案第 84 号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 84 号は、原案のとおり決定をされました。

では次の日程に進みます。

---

#### 日程第 7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） 本日、「協議事項」はございません。

---

#### 日程第 8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） さらに、本日は「陳情審議」もございません。

続けて次の日程に進みたいと思います。

---

#### 日程第 9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第 9 「その他」。

---

##### （1）教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （1）番、「教育委員報告事項」に入ります。

初めに、皆様方からご報告がございましたら、順不同で結構でございますが、ご報告いただければと思います。いかがでしょうか。

では、林教育委員さんからお願いします。

○教育委員（林 綾子） 3点報告があります。

9月23日に、中央図書館の110周年事業の図書館マルシェというものに小学校一年生の

娘と参加してきました。

図書館の中にワークショップのスペースができたり、外側の駐車場付近には飲食の屋台というかブースが出ていて、普段とは違う賑やかな図書館で大変楽しい雰囲気でした。

たくさんワークショップのある中から、娘の希望でペットボトルの蓋を細かく刻んだものを用意されているんですが、それを自分の好きな色、形に整えて、アイロンで溶かして、こういうのをアップサイクルっていうのか分からないですが、そういうような、ギューツと溶かして、形をつくって、キーホルダーやしおり作成するというものに挑戦してきました。

星型のキーホルダーを最終的につくったんですが、切り取って使わなかった部分も「家に持ち帰ってまた家でもまたつくれますよ」なんて言っていただいて、「ぜひやりたい」ということで家でもまたいろんな形をつくってみたりして、そんなふうに引き続き楽しみました。

図書館マルシェ自体は、本当に天気にも恵まれてたくさんの人出で、本当に図書館中が賑やかでとても楽しい雰囲気で、「また行ってみたいな」というようなことを娘も言っていました。私も初めてあんなふうに図書館でいろんなものが出ているっていうのを拝見して、とてもいい催しであったなというふうに感じました。

2点目は9月26日ですが、竜峡中学校の文化祭に出席させていただきました。

テーマとして「青春燦然」という、「一人一人が輝く」というテーマでした。開催式から学習発表、総合的な学習の発表の部分まで拝見しました。学習発表の中や総合的な学習の発表の中で、「ムトスの学び」というふうに言えるのかなっていうものの何か芽のようなもの、これから何か伸びていくのかなというふうに感じるものがいくつかあって、嬉しく感じました。

例えば学習発表の中では、英語のクイズみたいなものや理科の実験というものもありましたが、意見発表として「学校の環境について」というのがとても印象的でした。

実現性としてはちょっと難しいかもしれないですが、理由を述べて、「学校にエレベーターが欲しい」とか、あと「エアコン全部の部屋には欲しい」とか、それ以外にも「やっぱり木材を使用したらどうか」とか、この学校の環境というものを自分なりに考えているということがすごく面白いなど。意見発表ではあるんですが、ここがそういう自分の考えというところで何かにつながっていきそうだなという感じを感じました。

また、総合的な学習の発表では、各学年でどの学年も素晴らしい発表だったんですが、特にいいなと思ったのが、一年生がまず総合的な学習を始める前に、『問い』って何だろ

う」ってということから始めてくれていて、「問い」っていうものの意味ということをもまず考えたってところがとても面白いなと思いました。また、そこから何をやったらいいかわからないみたいな状況もあったのかなと思うんですが、「試しに」何かをやってみようというその「試しに」っていう部分が最初にあって、その中で「試しに」何かをやってみようって何かが出来たときに、そこからまた「問い」が始まるみたいなことが、ちょっと発表の中で述べられていて、なかなか大事なことかなというふうに感じて帰ってきました。

竜峡中学校文化祭、この午前中の部分だけでしたが、一人一人発表があったり、この「一人一人が輝く」っていうテーマを会長さんとか学校長がいろいろな形で説明してくれてたんですが、なんかいいなっていう、「一人一人を輝いていこう」というテーマがあちこちで見られて、いい形でされているなというふうに思いました。

最後ですが、10月2日の日に丸山小学校の運動会に参加させていただきました。

前日までの雨が上がりとてもよい気候で行われました。各学年団体競技がありましたが、その学年に応じた、発達に応じた、さらにまた個々の力を出せるものだなというふうに感じました。

また、団体競技ではないんですが、特に印象に残ったのは、いわゆるかけっこというか徒競走にあたる部分が五年生では「ウルトラリレー」というふうに書かれていて、リレーをやるのかなというふうに思っていましたら、リレーではあるんですが、クラスの枠を超えて、チームを5つぐらいだったかな、5つぐらいチームをつくり、またユニークなチーム名をみんなで考えて、その中でただただ走るシンプルなリレーではなくて、二人三脚ですとかムカデ競争も組み合わせていて、おそらくそれぞれが出たいところに出るところで、それぞれの力の発揮できる部分をみんなで決めていったのかなというふうに想像して、なかなか面白くて、個々の力が出せるいい競技だなというふうに感じてきました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

さらにいかがでしょうか。

麦島委員、お願いします。

○教育委員（麦島真理子） 私も3件報告させていただきます。

9月26日に、旭ヶ丘中学校の文化祭「かやの木祭」に行っていました。

私も開祭式と午前中に行われたステージ発表を見学させていただきました。その中で特に印象的だったことを3つお話させていただきたいと思います。

1つ目は、双方向かつ会場を一体化するようなコミュニケーションを大切にしていると

ということ感じました。ステージ発表では、人形劇部、パソコン部、合唱部、あと英語弁論の発表があったのですが、私のイメージですと、例えば司会進行が「1番、人形劇部お願いします」みたいな感じで始まるかと思いきや、今は中学生の進行役2名または3名の生徒の対話から始まって、これから行われる発表の内容や見どころなどを話しながらお互い質問をしたり答えたり、見ている人たちが楽しみになるような掛け合いをし、最後に一緒に声を揃えて「どうぞ！」みたいな感じで進められていて、それがすごく上手で、まるで生成AIの要約サイト「NotebookLM」の男女の会話のような印象を受けました。その日の午後ちょうど自分の子どもの東中の学芸会に参加したのですが、またここでも同じような場面が見られて、今はこれがもう当たり前の時代になったのかという、ちょっと自分の中で衝撃を受けました。

発表ごとに進行役の対話だけではなく、会場から意見や感想を聞く機会が設けられたり、ただ見ているだけではなく一緒になって楽しんだり盛り上がりたりできる工夫を感じられました。

2つ目ですが、各発表の内容として「人形劇部」は既存の作品ではなく、部員全員で一からつくったオリジナルの物語でした。中学生ならではの人間関係の悩みとか葛藤が描かれていて、気づきやメッセージ性のあるストーリーに感心しました。また、パソコン部の作品上映では、悪役に先生が登場したり、合唱部の発表でも、何人かの先生たちが一緒に歌を歌う姿があり、先生たちが一緒に楽しむ姿により会場が盛り上がりを見せておりました。子どもたちの主体性の中にも、先生たちのサポートがあるからこそ、このような素敵な文化祭になるということを感じました。

3つ目は、来賓や保護者以外にも、例えば、合唱指導をしている地域の方とか、「たまゆら」の老人ホームを利用している方が文化祭を見に来ていまして、合唱の発表のときに「学園天国」の歌の中で掛け声をかけながら拳を振り上げ、会場一体で盛り上がる姿があったり、また「たまゆら」の方たちが退場する際には、子どもたちがサッと動いて車椅子を押す姿がとても自然で素敵だなと思いました。

2つ目になりますが、10月3日と14日に初めて学校訪問に参加させていただきました。

駆け足ではありましたが、それぞれの学校で全クラスの授業を見せていただくという経験をさせていただきました。基本的に子どもたちはとても一生懸命授業を受けている、学びに集中しているという印象を受けました。また、学校の取組ですとか課題を聞かせていただき、先生たちの授業の準備や工夫、生徒へのフォローなどを実際生で見させていただき、大変学び多き機会となりました。

授業は、自由に発言できるような雰囲気と、また、先生に当てられたり発言の順番が回ってくるような緊張感のある雰囲気、どちらかに偏りすぎず、それらのバランスが大事なのかなと思いました。

最後に3つ目は、10月12日に和田小学校と地域の「南信濃にこにこ元気大運動会」に熊谷教育長とともに参加してまいりました。

まず、驚いたのは、グラウンドに着ぐるみのミニオンズと動物が何匹かおりまして、中に入っているのが中学生だったということです。運動会を中学生も盛り上げたり、運営のお手伝いに積極的に参加しているということに驚きました。また、小学校単独ではなく地域の運動会と一緒に、老若男女問わず応援したり楽しむことができまして、名前のおり終始笑いや笑顔が絶えないアットホームな運動会であると感じました。

私も来賓にもかかわらず、野菜やお菓子をビニール袋に20秒間詰め込んでその重さで勝負するという女性の種目に出させていただいたり、あと教育長とともにフラフープを使って「皆で輪にならまいか」という種目に同じチームで出席させていただいて、本当に自分自身もとても楽しませていただきました。また、昼食は公民館の皆様とご一緒させていただき、手料理をご馳走になったり、「地元の若者は盆や正月は帰省しないのに、運動会は楽しみに帰ってくる」という話を聞き、この雰囲気は本当に子どもたちの思い出に残る素敵な運動会だということを感じたり、地域の次世代を担う若者が育っていることを感じました。

最後には、遠山音頭も一緒に覚え、踊ってまいりました。

本当に私自身楽しく参加させていただきまして、地域の皆様の優しさとか温かさを感じ、初めて行ったのですが、南信濃が大好きになりました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

さらにございますか。

じゃあ、野澤委員お願いします。

○教育委員（野澤稔弘） 2つ報告いたします。

1点目が、9月26日に飯田東中学校の学芸会を見学をさせていただきました。

テーマは「共創」ということで競い合う方ではなくて、コ・クリエーションです。共に創り出すというテーマです。サブテーマで「互いの良さを見つけ、共に絆深める学芸会を創ろう」ということで、生徒たちが頑張っている姿を拝見しました。

体育館の後ろのほうに作品が並べてあって、その中でいくつか面白いなと思って見た

のが、電子黒板のカバーを絞り染めで作ってありました。大きなものなので「これすごいですね」という話をしました。また、木工の成果物が並んでいました。同じものが並んでるのかなと思ったら、いろいろなものが並んでいて、7～8種類並んでいて、つくる人が成果物を選べるのは、面白いなと思って、非常に興味深く拝見しました。

そこから導入の体育館のところで、何か導入の寸劇があったんですが、それが終わってから校庭に出てレクをやるということで、20チームぐらいに分かれて、相当な数に分かれていろんな競争をしたり、かけっこしたりというようなことをやったんですが、非常に天気がよくて日陰のところを見てたので、遠目に見てるしか場所がありませんでした。すごいいい天気でした。途中から浜井場小学校の六年生が入ってきて中学生と一緒にそのレクでやっていました。

自主的に中学生が運営してたと思いますが、気になった点が2つあって、1つは競技と競技の間が非常に長い。すごい長いなと思って、これはすごい間延びして、大変だろうなと感じました。二つ目は、小学生はみんな帽子をかぶってるんですが、中学生は帽子をかぶっている子が少なく、2～3割いるかどうかでした。この炎天下で着帽せずにいるのは大変だろうなと思って見てたんですが、先日ちょっと教育長と話をしたら、「いや、中学生ってそういう年頃なんだよ」と言われて、「そうなんだ」と思いましたが、着帽にはもう少し気遣いがあるといいんじゃないかなってちょっと思った次第です。こちらが東中のほうの学芸会のお話です。

先日、三行詩のコンクールを拝見しました。毎年拝見していますが、あのときにふと思ったことが、小学生以下の子の三行詩はひらがなで書かれているため、意味がなかなか通じないということです。毎年見っていますが、やっぱり表意文字を持ってる日本人って、漢字がある方が文章の意味が伝わりやすいんだなって感じました。ひらがなだけだとなかなか難しいな、漢字があるほうが漢字を読めなくても意味が分かるなみたいな、そんなふうで、やっぱりこういう文化がある国に生まれてよかったなと思いました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

北澤職務代理。

○教育長職務代理者（北澤正光） 皆さんとほとんど重なります。3点あって、1点目は同じく9月26日に竜東中の文化祭、これで3年連続竜東中に伺っています。生徒数がだんだん減って全校60人ほどになっていますけれど、見守る地域の方も同じぐらいの人数が見えていて、学校に寄せる地域の方の思いというのはすごいなと思いながら参加してきました。

ほかの委員さんと同じですが、さすが中学生でして、ほとんど生徒が前面に出て回しているということですが、音楽会の練習も途中で見せてくれて、全校合唱の練習やその指示も全て生徒だけでやっているというところがとても印象に残りました。

2点目は、10月4日の座光寺小の運動会。朝から雨が降っていたので、まさかやらないだろうなと思いつつも、花火の音が聞こえる場所ではなく、「そういう場合はホームページをご覧ください」とあったので、覗いたら「実施します」と書いてある。「おおっと」と思って慌てて支度をして行きましたが、テントが十分に用意されていて、ずっと霧雨状態のような中でしたが、全部最後まで行われました。

子どもたちが言っていたテーマが「最後まで全力でやり抜く運動会」ということで取り組んでいましたが、特に五・六年生は人数も少ないので、運営の係になり、それから自分たちの出場種目とやると、ほとんど用意されたテントの下へ入ることはなく、半日、本当に動き詰めで動いている様子を拝見しました。組体操なんかも背中が濡れるのを全く苦にせず凜として、本当に最後までやるんだという姿を見せてくれて「子どもたちってすごいなあ」と思って、感心して見せてもらいました。

そんな中、中学生が8人参加してくれて、小学生のリレーの前に中学生が本気で走るとこんなに速いという中学生の姿を見せてもらって、小学生にとってみると体も大きくなっているし、スピードも速いし、中学生ってすごいんだなというところを、小中一貫が始まっているところで、そういう意識づけにもなったのかなというふうに見せてもらいました。

最後ですが、10月7日に飯田下伊那に今年赴任した初任者研修会の2回目、阿智村の満蒙開拓平和記念館で行われたのに参加しました。32名ほどが参加されていたのですが、他郡からの方がほとんどの初任者なので、「記念館へ来たことがある人」と聞いたら、一人も手が挙がらず、つまりあの記念館を初めて訪れたという初任者たちでした。

そんな中で、事務局長の三沢さんから、「東京や広島のように爆撃を受けて目に見える戦争の被害というのものもあるが、この満蒙開拓団とかそれから少年義勇軍で参加し、海を渡った人たちのように、表には見えにくい戦争の被害者というのものもあるんだという、そういうことの根底に何があったのか、その事実をしっかりと受け止めて学んでほしい」というような言葉があつて、初任者たちもきっと何か心に刻んでくれて学校に戻ったのではないかと思っています。

それから4月に教育長と学校訪問で回ったときの初任者は、結構緊張の面持ちだったのですが、半年たって席についている様子を見ると、中にはちょっとお眠になりそうな表情

を見せたりしている方もいて、逆に言うと疲れもあるが、それだけのゆとりが生まれたのかな。居眠りをしてるのがいけないというのではなく、そこまで一生懸命奮闘してくれているんだと思って、頼もしく見てきた次第です。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

特に、何かご質問、ご発言がありましたら、よろしいでしょうか。

○教育委員（野澤稔弘） ちょっと追加で。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

○教育委員（野澤稔弘） どうもすみません、ちょっと言い忘れたことがあって。

東中の学芸会は、三年生が運営委員をやっていました。体育館に一年生と二年生及び三年生が椅子について座っていました。体育館での行事が終わった後、体育館から皆さんが出ていった後を見ると、三年生が座っていた椅子が 10 人分程度しかなく、ほとんどがみんな運営委員に回っている状態だったので、多分何年かたつと運営は大変だろうなと感じましたので付け加えさせてください。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

ちなみに東中も私がいた頃に、委員会を減らすっていうふうにして、昔のような大人数のときのままの組織でいくとやっぱり足らなくなっちゃうので、残って応援する人より出てくる人が多いってなっちゃうからね。

○教育委員（野澤稔弘） 実際、そんなものでした。

○教育長（熊谷邦千加） 現状はもう結構前からありましたね。

まあ、いい意味ではほぼみんな主役になるっていう感じで、そういうよさもあるわけですが。

はい、ありがとうございました。

---

## （2）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では、続いて「教育次長報告事項」に入ります。

報告がございましたらお願いいたします。

○教育次長（秦野高彦） ございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

---

## （3）教育政策課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加）　続きまして（3）「教育政策課関係報告事項」。

上沼教育政策課長。

○教育政策課長（上沼昭彦）　それでは総合教育会議についてでございます。

報告資料の3ページを御覧ください。

市長と教育委員の皆様との懇談の場であります総合教育会議でございますが、今年度は11月10日に御覧の日時で開催されます。

また、今年度のテーマにつきましては、先月の定例会でも少し触れさせていただきましたが、「次期 飯田市教育大綱の作成に向けて」と「こどもの体力向上について」、この2点で行います。

この資料は、当日の現時点での次第となります。当日の流れといたしましては、あいさつの後に、意見交換の時間として80分を予定しております。

前段に令和6年度の第2回総合教育会議の意見を踏まえて整理されました、「次期 飯田市教育大綱の策定について」、企画部より説明がございますので、これをご確認いただきたいということでございます。

その後に、2つ目のテーマとなります、「こどもの体力向上について」、ここはしっかりと時間を取って75分間という予定で意見交換したいということでもあります。

まず、市長のほうより、今回のテーマ設定の理由をお話いただいた後に、こども未来健康部と教育委員会事務局より、こどもの体力に関する現状等を説明させていただきます。その後に、市長と教育委員の皆様の間での問題意識・課題意識のポイントですとか、目指す姿、望ましいあり方、また当面の取り組む課題等について意見交換を行いたい、その様な組み立てとなっております。

企画部からの話では、教育委員会の皆様の子どもの体力に対する課題意識は何かというところから始めたいということがございますので、忌憚のないご意見をいただければということでございます。

なお、教育委員会事務局からの説明資料は、現在作成中でございますが、子どもの体力をどう捉えているのか、なぜ体力が大切なのか、体育の実態、また学校での取組、教育委員会としての認識等を説明する予定でございます。

なお、21日の火曜日に、市長と最終的な打合せが予定をされております。当日の進め方、また事務局からの説明資料についても、この場で最終確認が行われますので、若干変わる可能性もございます。

いずれにいたしましても、最終確認を踏まえ、改めて皆様に資料を事前に送付させてい

たきますので、確認後に当日をお迎えいただければと思っているところでございます。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの報告につきまして、何かご発言がございましたらお願いいたします。

とりあえず進め方ということでございますので、よろしいですかね。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

---

#### （４）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では、続きまして（４）「学校教育課関係報告事項」。

○学校教育課長（伊藤 寿） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

---

#### （５）教育センター関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では、続いて（５）「教育センター関係報告事項」。

北澤教育センター所長。

○教育センター所長（北澤孝郎） それではよろしくお願ひいたします。

教育センター所属の教育指導専門主査より３つの分野に関しまして、報告をさせていただきます。

例年９月の定例教委、あるいは１０月の定例教委でご報告をさせていただいてきております。本年度は１０月のこの定例教委ですが、よろしくお願ひいたします。

○教育指導専門主査（及川崇） お願ひいたします。教育センター教育相談係の及川と申します。

資料５ページ、上半期特別支援教育・学校支援等に関するご報告をさせていただきます。

５ページに主だった取組を記載してございますので、よろしくお願ひします。

１番、特別支援教育にかかわる取組としまして、記載のとおり特別支援教育にかかわる理解を深めるための研修会を開催し、各校の特別支援教育コーディネーターや特別支援教育支援員の先生方を中心に参加していただきました。研修会講師として全国的にも有名な日本相談支援専門員協会の顧問、福岡 寿先生をお招きするなどし、学校で明日に活かせる研修内容として、有意義な研修会となりました。

特別支援教育に関する学校訪問では、各校が抱える課題を聞き取るとともに、個別の教育支援計画や個別の指導計画について、それが効果的に活用されているかや支援員さんを

含めた学校の体制について懇談してまいりました。また、支援を必要とする児童・生徒の学校での様子やその環境についても参観、点検させていただき、担任の先生方とお話をさせていただきました。支援員の方々とも懇談させていただき、働き方等についても現状を伺うことができました。

これら以外の上半期の取組の1つとして、学校における医療的ケアについて、そのガイドラインを改訂し、対象の保護者、保育園、学校等と懇談を重ねてまいりました。ガイドラインを改訂したことにより、それぞれの役割が明確になりましたので、令和8年度小学校入学時に対象児童・保護者が不安なく毎日の学校生活を送れるよう、今後も丁寧に進めてまいりたいと思います。

2番、学校支援にかかわる取組としましては、支援会議やスクリーニング会議への参加や、各校における職員研修に呼んでいただき、講師として特別支援教育の理解・推進についてお話をさせていただきました。最近、職員研修として特別支援教育をテーマに扱っていただく学校が増えてきたと感じます。その背景には、どの学級でもユニバーサルデザインや合理的配慮の重要性が増していることによるものと考えられます。今後も飯田市として企画する研修の対象を支援級の先生のみならず、全職員を対象として実施する必要があると考えております。

3番、その他の取組としましては、第1回園小連携推進委員会を開催し、幼保園と小学校の接続について、今年度の取組を検討しました。また、公立園の年長部会の研修にも参加させていただき、園の先生方にも学校における特別支援教育について理解を深めていただくことができました。

続けて、資料の6ページ・7ページお願いいたします。

ここからは、先ほど申し上げた学校訪問を通して、校長会・教頭会でも周知させていただいた特別支援教育に関わる連絡事項になります。内容がたくさんありますので、ここでは成果、よくできていること3点と課題の1点を端的に申し上げます。

成果としましては、1点目は、特別支援学級における自立活動が時間割にきちんと位置づけられて行われているということです。一年間通じて確実に自立活動を積み上げていただいている様子に、昨年以上の改善が見られました。

2点目は、個別の教育支援計画が形だけのものではなく、効果的な使用の様子が見受けられる学校が増えてきているということです。子どもを支えるベースとして、個別の教育支援計画が、子ども・保護者・支援者をつなぐものとして、うまく回り出している事例が多く見られました。

3点目は、特別支援教育支援員が活きる組織的な体制がつくられている学校が増えてきているということです。各校の特別支援教育コーディネーターが支援員の時間割や支援内容を明確にして指示することにより、支援員の力が活きる体制づくりが進んでいると感じました。

最後になりますが、課題といたしますか、今後さらに考えていきたいこととしましては、特別支援学級における自立活動のさらなる充実です。支援学級において最も大切な取組といえる自立活動は、一人一人のねらいや目標に応じて行われるものです。活動ありきになっていないかや大勢で行う活動であっても、個人個人のねらいがきちんと定められているかどうかなど、一年間を通して、まさに個に応じた支援・指導の充実が今後さらに進んでいくことを課題と捉えております。

特別支援教育の報告は以上になります。ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

続いて。

○教育指導専門主査（木下耕一） 続きまして、資料8ページとなります。

教育センター学園支援係長、教育指導専門主査の木下耕一と申します。

上半期の報告としまして、私の担当に関わっていくつか話題を絞ってお伝えいたします。

1つ目、みらい創造科についてです。

令和8年4月、みらい創造科のスタートに向けて、教育センターでは学園支援係が中心となり学校訪問や研修会等通して各校の準備を支援しています。

新しい教科の創設に戸惑いや不安もあるわけですが、子どもたちが自分の問いや願いを大切にしたい探究的な学びができるよう、多くの先生方とともに少しずつ準備を進めているところです。

来年度に向けた準備をする中で、管理職である校長先生・教頭先生の果たす役割は当然大きく、今年度は校長会・教頭会でも事務局が中心となってワークショップ等を実施し、対話を通して研修を深めております。

先日、第3回の校長会では、みらい創造科のスタートに向けて、時間を生み出すための取組を考え、来年度の教育活動の構想を深めることをテーマにパネルディスカッションや意見交換を行いました。

資料に記載してあります感想から、校長先生同士の意見交換は、互いに新たな気づきを得る有益な研修になったことが伺えます。また、教頭会では、各学校の取組を共有したり、みらい創造科で目指す学びについて考えたりするワークショップを行いました。「教頭先生

がもし担任の先生だったらどんな学びを構想しますか」ということについて、グループで話し合う場面がありました。皆さんとても笑顔で楽しそうに意見交換をしてくださいました。参加された教頭先生の感想から、「学校でもこのような話合いの場を設けていきたい」、「また、そのことが来年度の準備につながっていく」といったお声をいただきました。

今年度はあと2回、校長会・教頭会があります。管理職の先生方とともに学びを深めつつ、4月からのスタートがよりよいものとなるように、今後も研修を続けていきたいと思っております。

2つ目は、三遠南信交流事業についてです。

今年度、中学生の交流は豊橋市での開催となりました。飯田市からは、各校代表34名の中学校二年生が参加いたしました。

飯田市の中学生にとって、豊橋市・浜松市の中学生と交流することは大変刺激になったようです。

中学校二年生の感想を一部紹介したいと思います。これは原文のままです。「私は物事よくないことしか目に行っていなかったのですが、この交流会を経て、悪いことだけでなく、よいことにも目を向け、多角的に捉えることが解決策を考える際に大切なのではないかと学ぶことができました。同じ中学生同士だからこそ、共感し合い、学び合うことができます。だからこそ、お互いに高め合うこと、話し合うことが大切なのだ気づくことができました。三遠南信中学生交流会を通してとても学ぶことができたと思います。」と書いてくれました。

教員交流については10月末を予定しております。飯田市からは2名ずつ豊橋市と浜松市へ研修に行きます。また、豊橋市からは2名の先生を受け入れることになっております。参加される先生には各市の教育活動について見識を深め、飯田市の実践に生かしていただくことを期待しております。

3つ目、学力向上の取組について説明いたします。

飯田市では、学力調査として全国学力学習状況調査に加え、総合学力調査を実施しております。学力調査では、児童生徒の学習状況を把握し、その後、結果を指導改善や支援につなげることが大切となっています。飯田市の研究主任会では、学力調査を具体的な指導改善や支援につなげるということテーマにし、研修や情報交換を行っております。

もう一つ、今年度、基礎的読解力の向上に向け、児童生徒の読解力の状況を把握することと目的に、小学校五年生でリーディングスキルテストを実施しました。また、職員研修として教職員による体験受検を実施いたしました。教員は事務局作成の動画で研修した後、

夏休み中にリーディングスキルテストの受検をし、その後、自身で振り返りをしたり、校内の職員、同僚と意見交換を行ったりしました。この研修を通して、自身の指導を振り返り、今後の授業の中でどのような取組ができるか等について考えを深めることができました。感想も御覧ください。

以上、上半期の報告となります。

今後も通いたい・通わせたい学校を目指し、学校と先生方を支援していきたいと考えています。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加）　じゃあ、続けて。

○教育指導専門主査（榊原研太）　はい、よろしくお願いします。

続いて、「学校におけるICT活用に関して」ということで、学園支援係教育指導専門主査の榊原です。よろしくお願いいたします。

1つ目の学校のネットワーク環境改善を図るということで、子どもたちは1人1台のタブレットを使い学んでいます。しかし、この便利な学びを支える学校ネットワークに問題が発生してきました。本日は、その問題と私たちが進めている改善策についてお話をします。

10 ページの上のほうですが、これまで学校ネットワークは特にお昼休みの後、6時間目に集中して利用されたりして通信速度が極端に遅くなったり、途切れてしまったりという問題が発生していました。酷いときには市全体でネットワークが使えなくなり、生徒や先生に大きなストレスを与えておりました。

こうなった理由は2つあります。1つ目は、インターネット上のクラウドサービスの利用が急増したことです。デジタル教科書やGoogle、Canvaといったアプリケーションでみんなが同時に共同編集するようになり、外部のデータとのやり取りは大幅に増えました。

2つ目は、そのアプリケーションにも関係はしますが、動画や高画質な画像などデータ容量の大きいコンテンツを利用するようになったことです。

そして今後のことも考えると、ここに書かれているように、生成AIの活用ですとか、みらい創造科における学園内外の交流や打合せ等、来年度もありますが、全国学力学習状況調査でのCBT化、つまりタブレットで回答するというような場面、そういった先を見据え、安定したトラフィック量を処理できるネットワーク環境の見直しは必須であります。そしてこれらをWi-Fi環境で整えることがとても難しいというところが大きな問題で

した。

この状況を改善するために、私たちは昨年 12 月から一部の学校の回線を強化しましたが、それがこの図にあるような下の図のようなものです。学校ごとに 1 ギガの回線が引けるような体制を整えようとしてきておりましたが、それでもまだ不具合が出る状況であり、今年度、専門業者による詳しい調査、アセスメント及び負荷テストを実施したところ、見えてきたことが、次のページから書かれております。11 ページを御覧ください。

この結果は、そのときのトラフィック量の推移ではあるんですが、緑ヶ丘中学校で行ったテストの結果です。折れ線の灰色の部分がトラフィック量の積算を表しているものですが、上より下のほうが増えているとはいえ、これではまだまだ十分ではないというような状況です。

この発生の原因として、3つ原因といいますか考えられることとしては、下にまとめた①～③にあたります。1つ目は、端末がインターネット上の場所を探すためのDNSというものに問題があること。2つ目は、インターネットの通り道、推奨されている基準ギリギリで余裕がないこと。そして3つ目は、学校のルーターと呼ばれる中継機器の性能が十分に発揮されていないことということが挙げられます。

次のページに行きますが、これらのことに対して、一時的にプロバイダーを変更して、学校からインターネットでより直接接続する試験的な方法を試したい。ローカルブレイクアウトといいます。また、ほかにも様々な改善策を考えているところで進めていかないといけないなというところです。

しかし、学校ネットワークの不具合はこれらのものだけではなくて、複数の要因が複雑に絡み合っているため、専門家ではない教育委員会だけで全てを解決するのは非常に困難です。今後は、ケーブルテレビ会社、専門学校などの協力者と連携し、全ての子どもたちがストレスなく学びを深められる安定したネットワーク環境の実現を目指していきます。

さらに、それが改善されて使えるものということで、年度当初のコンテンツの割り当て等の作業が大変煩雑でありましたが、その辺りも先生方に手を出していただけるような方向を考えていかなければならないと思っています。

そして、学習におけるICTの活用の支援ということで、信州大学の東原先生にご指導いただきながら、対話的な学びの授業を行い、相互参観を行って学んだこと学校で伝えていきます。これについては、とても効果を上げているなと感じるところです。

成果のところに書かせてもらいましたが、同時共同編集を利用した対話的な学び、スライドやC a n v a を利用した学習したことの構造化、生成A I の活用など取り入れるって

というようなことも理解を先生方にもしていただけたかなと思います。研修に参加した先生方には一斉授業を見直し、1人1台端末を活用した主体的で対話的で深い学びとなる授業づくりに向かって授業改善が図られていると感じています。

一気にいろいろ広められるわけではないですが、一つの学校に一人いらっしゃる、そういった中核となる先生を核として、じわじわと広めていければと思っております。

以上です。

○教育センター所長（北澤孝郎） センターの報告事項は以上でございます。

よろしく申し上げます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

ここの中身がたくさんございましたので、何かご発言がありましたらお願いいたします。  
北澤職務代理。

○教育長職務代理者（北澤正光） ご報告ありがとうございました。

質問とお願いということで受け止めてほしいのですが、まず最初にご報告いただいた特別支援教育のことは、大分進んでいるという状況をお聞きして嬉しく思いましたが、1点ちょっと懸念しているのは支援会議です。自分も現場にいるときにはとても効果があるものだということは十分承知しているのですが、今の働き方改革のことですとか、どうしても支援会議って、保護者の方にも来ていただくということになると、夕方とか夜の初めみたいなところで設定せざるを得なくて、そのようなところでやっていると、先生方のご負担ということももちろんあるのですが、中には今年も学校訪問してお聞きした学校の中で、「年に何十回ってというような支援会議をこれまでにやっています」とご説明いただいた学校もある。必要があって取っているとは思いますが、支援会議の回数が多ければ本当に効果があるのか。必要があるから設定しているとは思いますが、でもその回数とその実際の効果のバランスというか、その辺をどんなふうにお考えになっているかということをお聞きしたいことと、現状、各学校の様子でもし把握しているようなことがあれば教えていただきたいと思います。

それから、2番目の木下先生からあったみらい創造科の構築に向けてのことは、校長会や教頭会やそれからの研修会等、本当に細やかに設定してもらって、実際様子見ていると校長先生や教頭先生も本当に楽しそうにというか、本来新しいものを構築していくときってこんな楽しさを含みながらやっていくことなのだろうなというのは見せてもらっています。

これを学校版に置き換えたとき、学校でもぜひそういう時間を取ってやっていただくと

ということになると思うのですが、学校へ行って感じるのは、学校要覧の日課表をもらうのですが、この日課表のどこで先生方が集まってこういう建設的な議論をする、そういう時間が入るのだろうかと思うぐらい今、学校の日課が過密になっていて、ぜひ話し合いの時間を取ってほしいなというのとあわせて、なかなかそのバランスが難しいなと思っています。

特に、いわゆる大規模校のところで、このみらい創造科をどんなふうに組んでいくかっていうのが、多分、飯田市全体のみらい創造科を方向づけしていく上でもとても大事になると思うのです。小規模の学校は聞くと、結構小回りが効いて、いろいろ楽しいことも始めている印象なのですが。特に、中学校の大規模校4校ですよね。その4校がどんなふうに構築していくのかというのが、この後のいちばんのポイントになるのではないかと考えています。いいアイデアとかはないのですが、特にその4校にこちら側の支援とかアイデアの提供とか注力していただけると、私は市全体のところもいい調子で行くのではないかと考えています。

最後はICTのことですが、導入されてからのこの数年間で、タブレットを文房具のように使いこなすというようなことの合言葉で始まってきたのですが、まさにそういう状況になってきている。それは本当にご尽力いただいた結果だなというふうに思っていますが、来年以降、国の方向もデジタル教科書も認めていくような方向に動いていくと、ますますネットが動かないというのは、どうしてもネックになってしまうので、苦しいと思うんですが、なんとか改善できるように進めていっていただければと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） さらにございますか。

今の北澤教育長職務代理者の発言について、北澤教育センター所長。

○教育センター所長（北澤孝郎） では特別支援教育にかかわって及川先生。

○教育指導専門主査（及川崇） お願いいたします。

北澤先生からご質問いただいたことに、しっかり重ならないかもしれませんが、学校訪問をしてみて感じることは、担任と保護者だけで話をすることも支援会議に結構カウントしている学校もありました。それは支援会議というよりもどちらかという懇談というようなこともありました。

働き方改革の時間を生み出すことで考えれば、やはり出席者を選定していかないと、学年主任は全部の会に出なければいけないのかとなってしまいますし、保護者のお気持ちとしても、私1人、またご夫婦で2人とかに10人ぐらいの教職員という大人数がいても、保

護者としてのニーズはこんなに多くなくてもということもあるので、やはり出席者を選定していくということは支援会議のあり方として大事と思います。

そもそも支援会議のあり方として、会のゴールを明確にするという、やはりそれぞれの役割が明確になって終わるような支援会議のあり方を考えていかなければいけないと思います。

お願いします。

○教育長（熊谷邦千加） ほかよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） じゃあ、ひとまず次へ進みたいと思います。

---

## （6）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（6）番、「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

後藤生涯学習・スポーツ課長。

○生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） それでは13ページをお開きください。

「我が家の結いタイム」の三行詩コンクールの作品審査でございます。

今年度は全体で768件の応募をいただいたところでございます。教育委員の皆様、それから教育委員会事務局の各課・館・所の長の皆様には、この審査をお願いさせていただいておりまして、本日がその審査の締切りとなっておりますので、大変お忙しいところ恐縮ではございますが、審査いただきまして、その結果を資料の14ページにございます審査用の二次元コードをスマートフォン等で読み取っていただきまして、こちらのほうへ入力を押していただければ幸いです。

集計をして、入賞作品については、それぞれの学校のほうへ賞状をお届けさせていただくとともに、特選に選ばれた作品につきましては、2月7日のみらい創造教育推進フォーラムで表彰をさせていただく予定となっておりますので、ご承知おきいただければと思います。

それから、今日の報告事項に項目として入れてございませんが、10月13日に風越山トレイルマラソン大会を計画しておったところでございますが、10月5日の日曜日に今宮球場のすぐ横の丸山公民館と今宮半平さんの間のところに熊が出没しまして、その翌日からは上郷の上黒田周辺にも熊が出没するといった状況になりまして、昨日も山田体育館周辺に出没が確認されているという状況の中で、参加者の皆さんやスタッフの安全性を確保することが非常に困難な状況から、中止という判断を下させていただきました。

麦島教育委員におかれましては参加を申し込んでいただいております、大変申し訳なく思っているところではございますが、状況からすると、例えば選手のコースに1人で立つというボランティアさんもいらっしゃる中で、それを2人に仮にしたとしても絶対大丈夫と言い切れないということもございまして、このような判断をさせていただきました。

来年度以降どうするかというところは、また実行委員会等で検討してまいりたいと思いますが、こういった状況でそういう判断をさせていただいたということで、ご承知おきいただければと思います。

私からは以上です。

○教育長（熊谷邦千加） しばらくちょっと説明を続けたいと思います。

---

#### （7）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （7）番、「文化財保護活用課関係報告事項」。

○文化財保護活用課長兼考古博物館長（下平博行） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

---

#### （8）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （8）番、「公民館関係報告事項」。

○市公民館副館長（小林和弘） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

---

#### （9）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （9）「文化会館関係報告事項」。

筒井館長。

○文化会館館長兼新文化会館整備室長（筒井文彦） それでは、文化会館から4点お願いいたします。

資料のページ番号でいいますと、15 ページから人形劇関係が3点ございますので、まず人形劇の関係で1点目が「飯田人形劇フェスタ 2025 の実施報告」ということで、これまでも内容に関しましてはお伝えしておりますし、8月には御覧いただいておりますが、特に今回は人形劇公演の会場数ですとか、参加劇団数、または延べ入場者数、ワッペン販売数が速報値として固まってまいりましたので、ご報告をさせていただきます。

おかげさまで、今年の 2024 に比べますと、参加劇団数ですとか、延べ入場者数、ワッペ

ン販売数が伸びているということで、コロナ禍におきましては中止も含めて、影響を受けたんですが、コロナ禍を経て昨年より少し増えているという状況でございます。ただし、かつてのようにお子さんが多い時代から、徐々に小中学生が少なくなっているということがございますので、今後、大きく人数を増やしていくというのは、かなり努力をしないとイケないかなということがありますので、人数求めるというよりは質をよくして、さらに広がりをも深めていくというふうに変換していくステージになっているかなというふうに思っております。

中身に関しましては、資料のとおりでございますが、本年度、特徴的で私が印象に残っておりますのは、オープニングセレモニーでは人形劇団の「あつけらかん」という劇団の方が上演していただきましたが、この皆さんはカーニバル時代から参加いただいて、大学生の頃から参加いただいて、「このオープニングセレモニーの上演ができたことが非常に光栄だ」ということでご挨拶いただいて、そういう長い間通ってきていただいて、フェスタに関してかなり特別な思いをお寄せいただいている劇団の方がいらっしゃるなということで、大変嬉しく感じたところでございます。

次のページに様々な結果等ありますし、ボランティアスタッフも本部・地区、それぞれ大勢の方が参加いただいております。

若干ちょっと本部のスタッフが不足気味といえますか、今後どういうふうに運営していくかということは課題ではありますが、一方で地区の各公民館で運営いただいている地区公演に関しましては、今各地区の公民館報でレポートが載っておりますが、中学生、高校生が様々な形で参加いただいている。ただ単に受付だけではなくて、公演にあたっての司会をされたりですとか、場所によっては美術部の皆さんが飾り付けをしたりというようなことで、かなり小中学生、高校生の皆さんも含めて参加の輪が広がっているかなというふうに感じております。

続きまして、次のページで、「第四十三回伊那人形芝居公演」ということで、11月9日のイベントの案内がございます。

伊那谷に4座、人形浄瑠璃を伝承している座がございまして、その座の皆さんプラスその地域の皆さんの小学生・中学生、飯田でいいますと高陵中学校の黒田人形部の皆さんにも出演いただくということでございます。

それぞれ4座の皆さんがこの伝統をどう継承していくかという非常に大きな課題があるわけですが、今回の特徴といたしましては、三味線の体験講座というのを行っていただいております、その受講生の皆さんの発表もあるということで、新しい担い手を

どういうふうに生み出していくかということの取組の成果といたしましても、こういったところで発表があるということでございますので、お時間がある場合はぜひ御覧いただければと思います。

続きまして、これも人形劇の関係ですが、「張り子のお面をつくろう」ということで、これはNPO法人のいいだ人形劇センターが主催で、文化会館も一緒になって行う講座でございます。

文化会館と人形劇センターが様々な人形劇の支援を行っている一環ですが、張り子という人形劇に関わるお面づくりを、まずはきっかけづくりとして行うということでございまして、講師はかつて「人形劇団ひとみ座」に在籍をしていた飯田の方ですが、吉澤さんという方が講師を務めていただくということでございます。こちらのほうもご案内をさせていただきます。

最後でございますが、「第22回萩元晴彦ホームタウンコンサート」ということで、昨年もこのホームタウンコンサートに関しましてはお伝えをしていると思っておりますが、今年はバイオリンの石田泰尚さんの出演です。「石田組」としてプロデュースする公演が非常に各地で大人気ではありますが、今回はこの石田さんとピアノの山田さんということで公演会を予定しているということで、こちらは飯田信用金庫さんのプレゼンツということで文化会館も一緒になって行うということで、12月28日、もう年度末の新年を迎える間際でございますが、ぜひお出かけいただければと思います。

こちらの萩元晴彦さんのホームタウンコンサートに関しましては、昨年もお伝えしたかもしれませんが、飯田市馬場町出身の萩元晴彦さんが、「テレビマンユニオン」というテレビの制作会社の初代社長という縁がありまして、こういった企画ができていくということでございます。また、詳細についてはチラシを御覧いただければと思います。

説明は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） さらに説明を続けていただきます。

---

#### **(10) 図書館関係報告事項**

○教育長（熊谷邦千加） (10)「図書館関係報告事項」。

瀧本中央図書館館長。

○副参事兼中央図書館長（瀧本明子） お願いします。

今年度、中央図書館では開館110周年記念事業を行っております。先ほど、林委員さんからご報告をいただきましたが、9月23日には図書館マルシェを行いまして1,000人を超え

る参加者の方がいました。

実行委員の方やボランティアの方も非常に積極的に準備や運営に取り組んでくださいましたので、大勢の方が来てくださったのと、たくさんの方の出展があったことへの対応ができたんだろうなというふうに思っております。

図書館の中の飾りをボランティアの方がつくってくださいまして、普段のちょっとすました顔の図書館ではなく、賑やかな雰囲気になって多くの方にご参加いただきました。館内のあちこちでいろいろな会話も聞かれましたので、そんなことをきっかけにまた図書館においでいただけるといいなと思っております。

それから、資料の 22 ページと 23 ページに、11 月の 110 周年記念事業のご案内を載せてあります。

まず、「中央図書館のあゆみ展」ですが、11 月 15 日～30 日の間、中央図書館の 2 階で展示を行います。110 年間の中央図書館のあゆみ、それから蔵書の礎となっております、堀家の蔵書だった書物などの展示を行います。また、この 110 周年に合わせて、市民の皆さんから図書館に関するエピソードの募集をしておりますが、現在のところ 81 人の方からお寄せをいただきました。紙に書いていただいたり、メールでお寄せいただいたりしたものの展示をいたします。15 日の土曜日の 2 時から 3 時まで展示説明会を行う予定です。

それから、3 つ目の事業としましてシンポジウムを行います。「図書館の明日を語る会」ということで 11 月 29 日の土曜日に行います。

まず、岐阜のメディアコスモスの総合プロデューサーをされておりました吉成信夫さんの講演会を行います。つい先日 14 日、NHKの「クローズアップ現代」にも出演をされておりました。そこでは、「にぎやかな図書館をつくりたいということで、岐阜のメディアコスモスの運営をしてきた」ということを発表されておりました。この図書館のコンセプトを「子どもの声は未来の声」として取り組んでこられた事例などお話をいただきます。

それから、この地域で高校生や大学生と本に関わるものも含め、様々な活動をされている新井直彦さんに事例を発表していただいた後、パネルディスカッションを行って、参加していただいた皆さんと一緒に、これから図書館でやってみたいこと、また、図書館がどんなふうになっていったらいいかということと一緒に話すグループトークなども行います。

また、先日の図書館マルシェで飯田コアカレッジの学生さんと一緒につくった動画を 1 本発表させていただいたんですが、もう 2 本つくっておりますので、その動画もこのシンポジウムの中で上映をする予定であります。

多くの方にご参加いただけるように、呼びかけをしまいたいと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） さらに続けていきたいと思えます。

---

### (11) 美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） (11) 番、「美術博物館関係報告事項」。

榎村美術博物館副館長。

○美術博物館副館長（榎村洋介） 美術博物館からは2件お願いいたします。

まずは24ページでございますが、11月の「びはくにゅーす」でございます。

美術博物館のイベントなどが載せてございます。プラネタリウムのほうですが、2本の特別投影を開催いたします。1つは「四季の星空解説」ということで普段の番組とは違ひまして、生解説で星空のことについてお話をさせていただいています。

2番目は「ぐっすりプラ寝たリウム」というものでございまして、プラネタリウムに入ると眠ってしまって半分ぐらい見てない方、番組の内容はどうだったかなというような経験をした方もいらっしゃるかと思いますが、このプラネタリウムは寝ていただけるっていうプラネタリウムでございます。

それから、星空観望会、冬になりますとさらに星空がきれいになっておりますので、12月14日には冬の星座とふたご座流星群ということで観望会を美術博物館で行います。

続いて25ページになりますが、いくつか講座が載せてあります。文化講座ですが、一つは城下町サポーターの皆さんの案内で、城下町の「御用水」を訪ねる。今回、橋北地区を中心に皆さんに巡っていただくということでございますので、興味のある方はぜひご参加ください。

また、現在開催しております遠山郷をテーマにしました展覧会について特別記念講演会を行います。

11月3日、飯田市歴史研究所の太田元研究員のお話で、「王子製紙による山林開発と遠山谷」のテーマで話をさせていただきます。また、11月9日ですが、ここには書いてないんですが、この展覧会に合わせまして上村の文化祭のほうで下栗をテーマにしました「遠くへ行きたい」の上映会も行う予定でございます。

それから自然講座では11月8日にオオセンチコガネの絵本をつくられた館野鴻さんという方がいらっしゃるんですが、この方をお招きしまして、この方は生態を調べながら絵本を書いた方なんですが、そういうお話をさせていただきます。

それから、もう一つの26ページになりますが、「第25回現代の創造展」が11月23日か

ら12月14日まで開催をいたします。今年、現在は158名の方の作品を出品する予定ということになってございます。

今の「びはくにゅーす」の25ページにも載せてあるんですが、その中では中学生の一日学芸員だとか、ギャラリートークというイベントも行いますので、参加をしていただければというふうに思っています。

今日は、委員の皆さんには美術博物館の封筒をお渡ししておりますが、その中にはこの「現代の創造展」の案内が入っていますので、また御覧いただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

---

## (12) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて(12)「歴史研究所関係報告事項」。

牧内副所長。

○歴史研究所副所長（牧内 功） それでは27ページ歴研ニュース138号を御覧いただければと思います。

9月6日・7日に開催しました「地域史研究集会」の開催報告を掲載してございます。今年度は農業をテーマに2日間で延べ142名の参加いただいております。基調講演では、江戸時代の島田村である現在の松尾新井の村方・地主であった森本家に残ります農書「農業雑記」を取り上げまして、そこから農作物の生産技術を、当時の農業書や地域内の多岐の情報や森本家に残るといふ記録、作代といわれる使用人の経験や口伝えや慣習など、複数の情報源から、地域事情に合わせた良い農産物を生産しようとしたことが分かりました。そこから、肥料の購入や農作物の販売や贈答、農業を通じた周辺の農村、城下町、山村とのつながりが見えてきて、さらには森本家の当主が著名な国学者や文人として、他の都市とのネットワークを持っていたことあわせて、農業を通して地域社会を論じるために、その背景にある様々な人や地域間のつながりも視点に加える必要があると、そんな話をいただきました。

そのほかには、近世の文書から見えます長野県内での水田経営と品質管理で赤米の影響。あとは幕末に下伊那で広がりました「不二道」の活動の中で、稲の品種改良や栽培技術が決められたこと。また、下伊那地域での養蚕の普及と衰退と人による養蚕業の生活。また、来年度設立100年を迎えます長野県農業試験場が、地域の要望により設立されたことと、稲や果物の品種改良など、この地域で果たしてきた役割や歩みについても報告がございませ

た。この地域の農業生産や技術の歴史を振り返りまして、農業の影響を受けた地域の暮らしや、社会や今の農業に関する課題を考える、そういう機会になったと思っております。

2 ページ以降でございますが、2 ページは本年度、飯田歴研賞の受賞者のコメント 3 件を紹介させていただいております。

3 ページの上段はリレーエッセイで、下段につきましては、7月に職場体験として飯田 O I D E 長姫高校から 3 名、旭ヶ丘中学校から 2 名の生徒をそれぞれ受けましたので、体験してもらった内容や生徒さんたちの様子を紹介しております。

最終の 4 ページですが、飯田アカデミア第 108 講座についてですが、「戦後の地域の歴史と個人の歴史」と題しまして、歴史研究所の顧問研究員である大阪大学の安岡健一さんを講師に、12 月 6 日・7 日、市役所会議室で開催する予定でございます。

1 日目は「戦後の農業・農村」をテーマに 2 つの講座してもらい、2 日目は「個人の歴史の意義」をテーマに、「オーラルヒストリーは何か」について学んだ後に、「個人の記憶を回想するグループ活動」として、自らの歴史を振り返り、参加者同士が話し合う、そういう機会を設けて、現代史について考えることを予定してございます。

中段以降は、定例研究会の開催と歴研ゼミの 10 月・11 月開催日程についてそれぞれ掲載しておりますので、また時間のあるときにお目通しいただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） それぞれ各課・館・所から報告をいただきましたが、何かご質問、ご発言がございましたらお願いいたします。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） よろしいでしょうか。

---

### (13) 今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） では、続きまして今後の日程につきまして、事務局の説明をお願いします。

北澤総務係長。

○教育政策課総務係長（北澤五月） では、定例会資料の 3 ページを御覧ください。

現在、実施中の学校訪問ですが、現時点で 2 日間 6 校の訪問を終えました。引き続き 11 月 14 日まで 7 日間 22 校を予定しておりますので、よろしく申し上げます。

11 月 7 日金曜日は、飯伊市町村連絡協議会の秋季研修会が上郷公民館で開催されます。当日、会場の利用者が多いため、可能であれば乗り合わせ、あるいは J A さんの駐車場を

一部お借りする方向で、飯伊教にはお願いをしている状況でございます。詳しくは、またご連絡をさせていただきますのでよろしく申し上げます。

11月10日は、定例会で説明のとおり、こちらの会場で10時から総合教育会議を予定しております。資料は改めて送付いたしますので、よろしく願いいたします。

翌11月11日火曜日は、11月定例会がございます。13時半から本会場で予定をしております。

12月1日、第4回校長会以下は記載のとおりですので御覧ください。

今後の日程は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 11月7日の秋季研修会は、飯田市が今回会場ということですが、私と職務代理は先に午前中から準備の関係で行っておりますので、ご承知おきいただければと思います。

日程につきまして何かご質問、ご発言がございましたらお願いいたします。

よろしいですか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

それでは、全体を通して何か発言し忘れたようなことがございましたら。

ございませんか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

---

## 日程第10 閉会

○教育長（熊谷邦千加） それでは定例会のほうは以上をもちまして日程全て終了いたしました。

ありがとうございました。

閉会といたします。

---

閉会 午後4時30分